

No.3002

北部タイにおけるコン・ムアンの民族的アイデンティティ生成過程に関する
人類学的研究

東京都立大学大学院 人文科学研究科 博士後期課程
齋藤 俊介

本研究は、北部タイの村落部における人類学的フィールドワークに基づき、近代化や国家政治の影響を受けるなか、現地社会の多数派集団であるコン・ムアンのアイデンティティが、いかなる文脈の上で生成されているのか、その過程を検討するものである。2年目の研究活動では主に、タイ、チェンマイでの現地調査に取り組んだ。当該社会における「人と動物との関わり合い」という位相に着目するなかで、「象」をエスニック・マーカーとして捉え直し、そこから派生する人々の日常的なコミュニケーションに着眼点を置いたフィールドワーク調査を行った。

事例として検討を加えてきたエレファントキャンプをみると、オーナー、象使い、ガイド、ローカル住民など、様々なステークホルダーが関与し、エスニシティに応じて緩やかな役職の棲み分けがなされている。観光消費の場においては、民族的な文化や伝統知識といった人間をめぐる表象が入り込む余地はほとんど与えられていない。しかしホスト側に目を向けると、ある者は自己のアイデンティティの拠り所を象使いという職務それ自体に置きながら、またある者は単に糊口を凌ぐために、コン・ムアンというよりむしろコン・ムアン以外の多様なエスニック集団によって、エレファントキャンプの日常が構成されている点が明らかになった。同時に象は、それが実体を持つエレファントキャンプの飼育象であれ、仏教信仰や民間信仰の文脈で語られ、想像される空想物であれ、北部タイのマジョリティであるコン・ムアンを象徴する存在としても位置づけられる。さらに観光開発の文脈では、政府による恣意的な文化の価値づけが進められたことにより、広義の国民国家という次元におけるタイ・アイデンティティを表す存在として位置づけられてもいる。